



# SEASON

2021 AUTUMN No.55



写真：秋の日の中央図書館

ISSN 1349-3760

12 コラム「父の本棚」 藤田美江 看護学部教授

16 SBW 特集

4 創価大学中央図書館特別展示特集

8 図書館掲示板

# 「父の本棚」

藤田美江 看護学部教授

父の部屋には大きな本棚があった。いつも、ジャンルを問わずいろいろな本が詰め込まれていた。そして、面白かった本や感銘を受けた本があると、私に読むように勧めるのが父の常だった。

小学校低学年のとき、DNA二重らせん構造の図を私に見せながら、ワトソンとクリックによる世紀最大の発見の偉大さや生命の神秘について熱く語ってきた。私が理解できるかどうかはどうでも良かったようだ。純粋に、人が新しい知識を得たときの興奮や喜びの発露だったのだと思う。

中学生の時、「法隆寺を支えた木」という本を渡された。当時、部活動と受験勉強に忙しかった私は、「なんか地味そうな本だなあ」と、しぶしぶ受け取ったことを覚えている。しかし、手に取った私は、あっという間に読み切ってしまった。詳細は覚えていないが、千年を越す歳月、大伽藍を支えてきた木の秘密について書かれた本であった。昭和最後の宮大工と言われる名棟梁と木材工学の研究者によって、材料の見極めや構造の解析、匠の技の伝承などが解説されていた。匠の技というとどこか科学的に証明できないように思っていた私は、木材工学という学問によって理論的に説明できることに驚いた。日本文化の流れという側面もあった。千年前の人々の知恵に感銘を受け、法隆寺を建立した人々はどれだけ誇らしく感じていたのだろうか、と昔の日本人に思いをはせた。私が大人になっても、本を勧める父の習慣は続いている。20代後半で

帰省した際に渡されたのは、山本有三の「路傍の石」だった。「ええ、これ？」と、つい正直な感想が口から飛び出した。子どもの頃に一度読んだことがあったが、主人公が貯めたわずかな貯金でさえ使い込んでしまうどうしようもない父親、丁稚奉公に行った先で同級生から受ける嫌がらせ、東京に出てからも苦労の連続で、ネガティブな読後感しか残っていなかった本である。「なぜ、今また？」と思いながらも、帰りの新幹線の車中で読み始めた。なんて素直な娘なのだろう。読み返してみると、読み手の視点が変わったためか、私の感性に引っかかってくるところが違っていることに気づいた。きっと子どものときは、吾一の目線で感情移入して読んでいたのだろう。大人になってから読むと、その時の時代背景を考えながら読み、いろいろな登場人物の背景や事情などを理解することができた。あそこまでの熾烈な経験はしないまでも、生きるうえで理不尽なことはたくさんあり、それを乗り越えたり、折り合いをつけながら、人は生活しているのだ。「路傍の石」というタイトルの意味を改めて考えた。



それまで、同じ本を数年後に読み返したことはなかったと思う。これをきっかけに、夏目漱石の「坊っちゃん」や「こころ」などを読み返してみた。「坊っちゃん」の面白さは軽妙な語り口、リズムだろうか。江戸っ子口調でユーモラスに毒舌をまくし立てる様が何とも楽しい。夏目漱石は生後4ヶ月で里子に出され、さらに1歳の時に父親の友人の家へ養子に出されている。9歳で生家へ戻るが、子どもの頃の家庭環境を考えれば、十分な愛情を注がれたり甘えられたりすることはなかつただろう。「坊っちゃん」は作品の最後、東京に戻って就職し、下女の清と暮らすのだが、いつも主人公の理解者で溺愛してくれる清は、理想の母親像だったのではないだろうか。作者の人生と重ね合わせて作品を読むようになったのも、大人になってからのことである。しばらく、小説の再発見を楽しんだ。

一年前のことである。父から「終活で本を処分したいから、手伝いに来てくれ」と応援要請があった。久しぶりの帰省で見た父の本棚には、純文学から趣味の園芸まで、相変わらずバラエティに富んだ本が並んでいた。本を大切にしてきたことを知っていた私は、「本当に処分して良いのね？」と念を押したところ、「今はネットで本が読める。iPadで読むとき、文字も拡大できる。便利になったものだ。それに、ここにある本は何度も読んだから、得るべきものはもらったよ。」と穏やかに笑っていた。父は、貧しかったために働きながら夜学で高校を卒業した人である。生まれた土地で暮らし、もうすぐ一生を終えようとしている。海外旅行に行ったこともない。半径10



km程度の狭い田舎で生活してきた人であったが、その意識は世界に広がり、時空を超えていたのだろう。父は書籍を通じて、数多の賢者と語らっていたのだろうと改めて実感した場面であった。

処分する本を荷造りひもで結びながら、私は買っただけで読めていない本のことを思い出していた。仕事柄、看護学生向けの教科書を書かせてもらえるようになり、1冊の本が出版されるまでにどれだけの時間とエネルギーがかかるかがわかるようになった。COVID-19の感染収束まで、もう少しかかりそうだ。秋の夜長、しばらく読書を楽しむことにしよう。





## 創価大学創立50周年記念 池田文庫特別展

創価大学中央図書館では、創価大学創立50周年を記念して、「池田文庫特別展」を開催しています。(10月12日～11月18日)

創立者池田大作先生は15歳のときから収集された蔵書、約7万冊を創価大学にご寄贈ください、1997年5月8日に「池田文庫」として開設されました。

今回の特別展では、創価大学図書館の年表を基に「池田文庫」の貴重書の展示、創立者のスピーチを通して、創立50年の歴史を振り返り、創立者が創大生・短大生に寄せられた限りないご期待をお伝えするとの意義も込められています。

中央図書館へご来館の際は、是非お立ち寄りください。



写真a 「池田文庫図書」①



写真b 「池田文庫図書」②



写真c 「池田文庫貴重図書」



写真d 「戸田大学関連図書」



## 牧口常三郎先生 ご生誕150周年記念展示

本年夏、創価教育学体系の発刊90周年（2020年）、牧口常三郎先生ご生誕150周年（2021年）を記念し、「牧口常三郎先生ご生誕150周年記念展示」を開催しました。

この展示では、現在の創価の学舎が出来上がった歴史や、牧口先生ご生誕から現在に至るまでの年表などが紹介され、貴重な書籍『復刻版 創価教育学体系』を展示しました。

「創価教育学とは人生の目的たる価値を創造し得る人材を養成する方法の知識体系を意味する。人間には物質を創造する力はない。吾々が創造し得るものは価値のみである。所謂価値ある人格とは価値創造力の豊かなるものを意味する。この人格の価値を高めんとするのが教育の目的で、此の目的を達成する適用な手段を闡明（せんめい）せんとするのが、創価教育学の期する所である。」

『創価教育学体系』第1巻第1篇 第1章 緒論



# SBW を知ってるかい？

創価大学・創価女子短期大学から「読書の波」を起こそうとの学生の熱意で、Soka Book Wave (全学読書運動) が始まりました。

創立者が提唱される「活字文化復興」を実現すべく、2005年から学生有志と図書館職員で構成する Soka Reading Project (SRP) が協力して実施しています。

## SBW の書架はココ！

中央図書館2F、ブラウジングルーム前の廊下に書架があります。  
2F閲覧室へ入る前にちょっと立ち止まってみてはいかがでしょうか。



SBWの書架には、4つのカテゴリがあります。

本の背表紙には「SBW」と書かれた各カテゴリの色ラベルがついています。  
それぞれのカテゴリに並ぶタイトルを一部ご紹介します。



### 名作

『老人と海』  
ヘミングウェイ著；福田恆存訳  
『雪国』  
川端康成著  
など

### 創立者著作

『新・人間革命』  
池田大作著  
『二十一世紀への対話：対談』  
池田大作著；アーノルド・トインビー著  
など

### 文庫のすすめ

『マスカレード・ホテル』  
東野圭吾著  
『人間失格』  
太宰治著  
など

### 推薦図書

『嫌われる勇気：自己啓発の源流「アドラー」の教え』  
岸見一郎著；古賀史健著  
『火花』  
又吉直樹著  
など

## イベントを開催しています！

読書が楽しくなるイベントを行なっています。  
春学期はオンラインでイベントを開催しまし  
た。今後の予定もウェブサイトに掲載されます。  
チェックしてみてください！



### オンライン読書カフェ

～シュリーマンの八王子訪問記を読む～

開催日：6月18日  
時間：16時35分～18時05分  
進行役：伊藤貴雄教授

トロイア遺跡の発掘で知られる  
考古学者シュリーマン。  
彼は江戸末期の日本を訪れ、  
八王子にも足跡を残しました。  
シュリーマン生誕200周年を迎えるにあたり  
その訪問記を読みながら、八王子という街の  
歴史や魅力について語り合います。

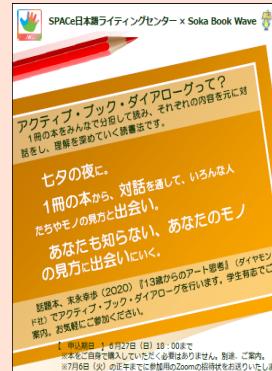
下記がイベントの申し込みページです。  
<http://sul.soka.ac.jp/CARIN/CARINTRAININGSESSION.HTM>

桑都プロジェクト  
×  
SOKA BOOK WAVE

### オンライン読書カフェ

～シュリーマンの八王子訪問記を読む～

シュリーマンが生誕200周年を迎えるにあ  
たり、その訪問記を読みながら、八王子と  
いう街の歴史や魅力について語り合いま  
した。



## オンライン読書会『13歳からのアート思考』

### アクティブ・ブック・ダイアローグ

アクティブ・ブック・ダイアローグという読書  
法を、話題の本『13歳からのアート思考』で  
体験しました。



## オンライン朗読ワークショップ・

### 作品の朗読実演と解説

～学校では学んでいない宮沢賢治の世界～

第1部は講師をお迎えしての朗読ワークショップ、第2部では朗読の実演と解説を行いました。

## 読書感想文でSBW ポイントをGET！

ウェブサイトで本の感想を記録できます。

提出した感想は、大学院生が添削し、文章の書き方等を丁寧にアドバイスします。

大学院生の確認・承認が終了すると、評価にあわせてポイント付与され、

50ポイント毎に図書カードを1枚進呈します。

感想の文字数が1～49字は1ポイント、50～99字は5ポイント、100字以上は10ポイント付与されます。SBWのイベントに参加することでポイントが付与されます。

# TOSHOKAN 図書館掲示板 KEIJIBAN

## 図書館の開館日程について

図書館の開館日程については図書館 Web サイトでご確認をお願いいたします。

また今後の経過により、開館日程及びサービスが一部変更する可能性もございます。図書館 Web サイトでお知らせしますので、事前に図書館カレンダー等の情報を確認の上ご来館ください。  
ご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



図書館 Web サイト

## 冬季長期貸出しのお知らせ

大学の冬季休業に伴い、図書館では長期貸出が始まります。この機会にぜひ、たくさんの本に出会ってください。

2週間貸出者：学部生・短大生

12月8日（水）～12月13日（月）

4週間貸出者：教職員・大学院生・通教生

12月8日（水）～12月27日（月）

一斉返却日：2022年1月11日（火）

## 書庫利用講習会について

2021年度11月書庫利用講習会 開催のお知らせ

中央図書館の書庫を利用する入庫資格を希望される方は、この講習会を受講してください。

1度受講すると、入庫資格は在籍期間中（卒業まで）有効です。

【開催日】

11月15日（月）～11月19日（金）

1日につき ① 9:15～10:15 ② 11:00～12:00 ③ 13:20～14:20 ④ 15:00～16:00 の4回。

各回定員：3名

申込資格：本学所属学生

申込方法、申込開始日については、図書館ウェブサイトをご覧ください。